

会 議 結 果 報 告 書

令和 6 年 7 月 1 7 日

会議の名称	令和 6 年度 第 1 回志木市地域医療連絡協議会
開 催 日 時	令和 6 年 7 月 4 日（木）午後 1 時 3 0 分～午後 2 時 4 5 分
開 催 場 所	市役所大会議室 3－3
出 席 委 員	鎌田昌和委員、蓼沼寛委員、加藤広久委員、相原大和委員、 外村光康委員、宮本日出委員、西野博喜委員、高澤淳仁委員、 根岸麻紀委員、瀧仁孝委員、河村龍二委員、峯岸章委員、 近藤政雄委員、中村修委員、的場裕行委員、平田大輔委員、 奥田和治委員、飯田恵子委員、杉田明子委員、渋谷幹彦委員、 金澤嘉子委員、清水裕子委員 (計 2 2 人)
欠 席 委 員	岩崎智彦委員、椎木雅和委員、鳥飼香津子委員、佐野隆之委員、 神崎喜代乃委員 (計 5 人)
説明員氏名	的場裕行委員、奥田和治委員、飯田恵子委員、杉田明子委員、 渋谷幹彦委員、金澤嘉子委員、清水裕子委員 (計 7 人)
議 題	(1) 令和 5 年度事業報告及び令和 6 年度取組事業について (2) その他
結 果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0 人)
事務局職員	山田美穂、高橋薫、本間晴香、菅谷豊（健康政策課）

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 役員選出

会長…鎌田昌和委員

副会長…宮本日出委員、近藤政雄委員

幹事…加藤広久委員、椎木香津子委員、清水裕子委員

3 会長挨拶

4 議 題

- (1) 令和5年度事業報告及び令和6年度取組事業について
各所属の事業内容等について各担当委員より報告した。

〔共生社会推進課〕

基幹福祉相談センター事業

〔長寿応援課〕

高齢者関連統計、在宅医療介護連携推進事業、認知症初期集中支援チーム事業、フレイル予防プロジェクト

〔子ども支援課〕

子ども家庭総合支援室に関する事業、子ども医療費助成事業、ひとり親家庭等医療費支給事業

〔保育課〕

保育園児健康診断事業、すくすくしきっ子事業

〔健康政策課〕

いろは健康ポイント事業、おいしく減塩！「減らソルト」プロジェクト事業、地域の「しょく（食・職）場づくり」担い手育成による食育の推進、志木っ子元気！子どもの健康づくりプロジェクト、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施、被保護者健康管理支援事業、働く世代の健康づくり事業「志木市健康貯筋スタートプログラム（アウトドアヨガ）」、健（検）診事業、国保保健事業

〔健康増進センター〕

定期予防接種事業、出産・子育て応援金、母子保健事業、健康増進事業、歯科保健事業、こころの健康づくり事業、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種事業、带状疱疹ワクチン費用の助成事業、産後ケア事業

〔児童発達相談センター〕

相談事業、小児科医師相談事業

〔保険年金課〕

志木市国保における医療費の推移、後発医薬品の使用促進対策、後発医薬品数量シェア

〔学校教育課〕

令和５年度志木市立小中学校健康診断実施結果

〔志木消防署〕

事故種別年令区別傷病程度別搬送人員調

●質疑応答及び意見

委員）フレイルとは全身の運動機能が虚弱になることであり、オーラルフレイルの人は健康な人に比べ３年後に全身フレイルになる人が２．１倍、誤嚥性肺炎を引き起こす人が２．４倍となる。オーラルフレイルの取組について、ぜひ前向きにご検討いただきたい。

委員長）健康まつりでもオーラルフレイルに着目した取組を行っている。次の会議では新しい取組を発表していただきたい。

委員）子宮頸がん検診について、今年度からHPV単独検診に変更したが、新しいことを始める際には、事前にシミュレーションをして課題を把握するとともに、その対策などを含めた話し合いの機会をしっかりと持っていたきたい。現場では、毎日問い合わせの対応があり大変である。また、医師会の要望として、保健師さんによるHPVワクチン接種の講演をしていただきたい。患者さんは、HPVは感染を繰り返すため抗体を持つにはワクチン接種が必要であることや、国の方針など、患者さんが知らないことが多い。広告や紙媒体で伝えられることは限度があるため、保健師さんから伝えることができる機会があるより普及につながると考える。ワクチンの有用性について患者さんは知らない方も多い。

健康政策課）HPV単独検診については、昨年度より医師会の先生方には相談をさせていただいており、専門職の教育についてご協力いただきたい。市民への周知について、ホームページのほか広報しき９月号にて基礎知識も含めて周知したい。無料クーポン券対象者には、キャッチアップ接種が今年で最後ということも周知している。先生方からご意見をいただきながら進めていきたい。引き続きご協力をお願いしたい。

委員）志木っ子元気！子どもの健康づくりプロジェクトにおいて、足の測定をしていると思うが、ハイリスク児童は何%くらいいるのか。また、インソール以外の支援はどのようなことを行っているのか、フィード

バックはしているのか、測定後数年後に再測定するのか教えていただきたい。

委員長) 最終的な結果について、専門的な統計データも含め次回会議にて報告していただきたい。

(2) その他

5 閉 会